

平成23年度 事業報告

社会福祉法人 福岡育児院

1 児童処遇状況

- 事業実績

【定員 95名 暫定77名】

入所定員	95名	延人員	1140名
平均入所数	68名	延入所数	816名
入所率	71%		

§ 入所児の年齢別調

	平成23.3.31			平成24.3.31		
	男	女	計	男	女	計
幼児	9	6	15	8	6	14
小学生	17	11	28	9	12	21
中学生	11	5	16	12	4	16
高校生	4	6	10	3	7	10
合計	41	28	69	32	29	61

§ 入所児（理由別）

H24.3.31現在

措置理由	人数
父母の死亡	4
父母の行方不明	0
父母の不和	0
父母の拘禁	1
父母の入院	1
父母の就労	1
父母の性格異常・精神障害	5
父母の虐待（放任）	8
（身体的）	6
（心理的）	3
（性的）	0
養育拒否	0
破産等の経済的理由	9
不登校	0
その他	22
合計	60

※措置理由の内訳については、児童票の養護内容欄に記載されている分の集計です。

§退所人員（理由別）調

	父のみ	母のみ	両親	その他	計
家庭引取り					
他施設へ	2	5			12
進学（専門学校）	1		5		1
就職（行方不明）		3		2	5
その他					
合計	3	8	5	2	18

- 帰省状況
- 夏休み 〈8月12日～15日を中心に10日以内〉
 - 8月13日在籍数 67名
 - お盆里親 5名（7%）
 - 帰省児童 27名（40%）
 - 居残児童 35名（52%）

ロ. 正月 〈12月30日～1月3日を中心に10日以内〉

12月30日在籍数 73名
 ○里親 2名 (4%)
 ○帰省児童 37名 (53%)
 ○居残児童 29名 (42%)

(3) 入所児童の進路・進学状況

①高等学校卒業 男子 3名 ・ 女子 3名
 就職 有限会社蛭子丸水産 男子 1名
 就職 福岡運輸株式会社 男子 1名
 就職 合同製鐵株式会社 男子 1名
 就職 株式会社サンデリカ 女子 1名
 就職 有限会社二鶴堂 女子 1名
 進学 福岡県立大学 女子 1名

②箱崎清松中学校卒業 男子 4名 ・ 女子 2名
 高等学校進学 純真高等学校〈普通科〉 男子1名
 博多高等学校〈普通科〉 男子1名
 福岡工業高等学校〈普通科〉 男子1名
 福岡高等学園 男子1名・女子1名
 城東高等学校 女子1名

③博多幼稚園
 年中 男子 1名 ・ 女子 0名
 年長 男子 2名 ・ 女子 2名

(4) 年間行事

月	行 事 内 容	月	行 事 内 容
4	幼稚園入園式 小学校入学式 中学校入学式 高等学校入学式 中1自然体験学習	10	芋掘り招待 アイススケート招待 櫛田神社七五三お祝い 那の津ライオンズクラブとの 交流会 福岡西ローターアクトクラブ との交流会
5	全日本司厨士協会バイキング 食事会 ライオネスクラブとの交流会 菅松小学校との交流会 箱崎清松中学校との交流会 箱崎清松中学校体育会 小5自然教室	11	アイススケート招待 もちつき交流会 筑後川ふれあい駅伝大会
		12	院内クリスマス会 幼稚園もちつき大会 校区クリスマス会
6	福岡市児童福祉施設球技大会 菅松小学校運動会 校区ソフト・ドッチボール大 会	1	初詣 つばさ合唱団合宿
7	施設自然体験学習	2	校区餅つき大会 校区親子ドッチボール大会 つばさ合唱団演奏会 私立高校入試 ボーリング大会
	施設自然体験学習 なべしま焼き肉招待 食文化の会招待 ふれあいお盆里親行事 校区夏祭り 児童面接		

8		3	公立高校入試 院内バスハイク 卒院・進級お祝い会 幼稚園卒業式 小学校卒業式 中学校卒業式 高等学校卒業式 ★毎月1回誕生日会、避難訓練実施
9	つばさ合唱団合宿 西鉄招待 幼稚園運動会 箱崎放生会見学		

(5) 入所児童の活動状況について

こどもたちは、スポーツ面や文化面において意欲的に取り組んでおり、数多くの成果を挙げています。

- ・福岡市児童福祉施設球技大会 ・野球の部 3位
- ・福岡市児童福祉施設球技大会 ・バレーボールの部 準優勝
- ・筑後川ふれあい駅伝大会 ・駅伝の部 7年連続優勝
- ・その他駅伝大会、マラソン大会に参加し、多数入賞
- ・月1回の奉仕活動で地域のごみ拾いに取り組んでいます。

2 職員の処遇状況

(1) 職員配置実績

区 分	23年度 配置数 (H23.4.1)	22年度 配置数 (H22.4.1)	増 員
施設長	1	1	
次 長	1	1	
主任指導員	1	1	
主任保育士 (FSW兼任)	1	1	- 1
		1	
男子小学生部	3	3	
グループホーム	1	1	
男子中高生部	3	3	
女子部	5	6 (1)	- 1
幼児部	8 (4)	5 (2)	+ 3
処遇職員計	2 2 (4)	2 1 (3)	+ 1
調理部	6 (1)	5	+ 1
心理士	1 (1)	1 (1)	
事務部	2 (2)	2 (2)	
嘱託医	1 (1)	1 (1)	
合 計	3 4 (9)	3 2 (7)	+ 2

【備考】 1. 配置数の () 内は非常勤で、内数です。

2. 心理士は、3人で月20日以上を勤務する。

3 施設の運営状況

平成23年度は、定員95名（暫定定員77名）でスタートした。昨年度に引き続き措置費収入源が予想されたが、年少児・未満児の入所が多くあったこともあり黒字決算で終えることができた。

今年度の特徴として、児童の処遇面では幼児の一時保護、ショートステイの受け入れが非常に多かったことと、職員の体制面では8名の退職者が出て、「人を育てる」ことの難しさを痛感させられた。

(1) こどもの権利擁護と自立支援

○こどもの支援について

こどもの支援に当たっては、こどもの権利擁護と自立支援のために、次のような重点方針によりこどもの支援を行っ

た。

(ア) 正しい基本的生活習慣を培い、節度ある態度を育てる。

(イ) 社会に出たとき信頼され自立できる人間、ひとの痛みがわかる人間、ひとに感謝する気持ちを持てる人間の育成を図ることを自立支援の基本とする。

(ウ) こどもの個別状況に応じた支援を通して愛着形成と自らを認める自尊感情の一層の確保・増進を図る。

(エ) スポーツを通じた心身の鍛練により、辛抱強さ、集中力、やる気や向上心を培う。

(オ) 学力の向上のため、職員による学習指導を強化すると共に、学習塾の活用を図る。

(カ) 夢を持てるこどもを育てる。

(キ) 処遇職員と心理士の連携により、こどもの情緒の安定・改善を図ると共に、処遇職員のこどもの行動理解・支援技術の向上を図る。

(ク) こども用図書の整理・充実を行う。

(2) 良質な職員の確保と育成

真にこどもの養育に情熱と愛情を持てる職員を確保・育成するため、次のような事を行った。

(ア) こどものより良い支援を行うには、職員の資質、支援技術等の向上を図る必要があるため、職員研修には積極的に取り組んだ。施設内における職員研修は毎月行い、福岡市乳児院児童養護施設協議会や福岡県・九州・西日本・全国の養護施設協議会等が主催する職員研修に多数の参加をさせた。

(イ) 良質な職員を確保するため、福岡県社会福祉協議会の人材センターやハローワーク等を通じた公募による職員採用を行った。

(3) 居住環境や職員の執務環境を保持・増進

こどもたちのより良い居住環境や職員の執務環境を保持・増進するために、主に次のことを行った。

(ア) 設備の点検と修繕（食堂前木製床テラス改修工事、2F・3F風呂給湯器取り替え工事等）

(イ) 物品購入（厨房内スチームコンベクションオープン購入等）

(4) 施設運営の透明化の推進

(ア) 広報誌の発行

福岡育児院の広報誌「ふれあい」第7号を7月に発行し、保護者、地域の方、関係機関等に配布した。

(イ) ホームページの充実

施設の運営・経営をより透明化するため、財務諸表を公開し、苦情解決委員会の第三者委員の氏名・電話番号・住所をホームページに公表している。

また、こどもたちのスポーツ活動等の生活状況も掲載し、入所児童に対する理解をいただけるように努めている。

地域との連携を深めていくためにも、まずは福岡育児院の状況をお知らせすることによって、福岡育児院を身近に感じていただくように努めている。今後も、最新の情報提供を迅速に行うようになお一層の推進を図る。